

2020 年度

システム理工学部

共通科目委員会 語学部会

自己点検・評価報告書

2020 年 8 月 18 日

1. 理念・目的

芝浦工業大学では、グローバル化した社会から学びグローバル化した社会に貢献できる人材の育成を目指し、大学アドミッションポリシーでは、「我が国と世界の持続的発展に貢献」しようという意志をもち、「コミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ」学生の入学を求めている。また、システム理工学部ディプロマポリシーでも、「地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる」ことを、学修・教育目標の一つとして挙げている（根拠資料：大学ホームページ）。

これらのポリシーに従って世界に貢献するためには、世界の様々な国の人々とコミュニケーションできる能力を備えていなくてはならない。システム理工学部では、世界の共通言語としての英語、および、英語圏以外の多様な国の人々とのコミュニケーションツールとしての第二外国語の教育を行っている。

近年、就職後や大学院進学後に役立つような英語力、本学部の場合は理工系人材育成として必要な英語力を育てるのに適した語学カリキュラムへの期待が強くなっている。さらに、就職活動時及び大学院進学時等に語学検定試験スコアの提出を要求される場面が増えているため、実用的な英語能力を育むカリキュラムの必要性も学生から聞かれるようになっていく。

こうした背景から、2012年1月に学部長より語学カリキュラムの強化の要請が出され、「語学教育に関する将来像検討委員会」（以降、「検討委員会」）が発足した。最終的に、2015年度からの英語カリキュラムの実施に関して、「国際感覚を持ったエンジニアに相応しい実践的な英語の4技能（読む、聴く、話す、書く）向上」を方針とする新カリキュラムを2014年4月に答申し、4月のシステム理工学部教授会に報告された。

検討委員会からの答申を受け、その方針を具体化する作業を学部長、語学部会委員を含む教員、職員からなる英語カリキュラム改革全体会議にて行った。2015年度からの新カリキュラムの特徴は以下の通りに決定した。

- 1) 基礎的な学術英語の学習から始まり、理工系の実践的な英語に進む道筋を明確にする。
そのために、1年次と2年次の英語の授業を一新する。
- 2) リメディアルクラスを新設し、英語の基礎力が不足している学生の英語力の底上げを計る。
- 3) 3年次には理工系のプレゼンテーションや、語学検定への対策授業を新設し、卒業後に必要とされるスキルや資格を獲得できるようにする。
- 4) レベル別クラス編成とし、学生の英語レベルにあった学習ができるようにする。

- 5) e-learning を 1, 2 年次の授業で全面的に取り入れ、自宅学習時間を確保する。
- 6) 海外語学研修に参加することにより単位が取得できるような授業を新設し、海外英語研修への参加を促す。
- 7) 4 年次に進級時の目標とする TOEIC スコアを設定し、学習目標を具体化させる。
- 8) 英語学習サポート室を新設し、英語の疑問や悩みを相談できるようにする。

以上の 2015 年度からの新カリキュラム基本方針が現在に至っている。

2. 教育課程・学習成果

2015 年度に、上記特徴を具体化するために、以下の英語カリキュラムをスタートさせた。学外英語検定（単位認定科目）以外は 2015 年度当時すべて新設科目であった。2016 年度には、2 週間程度の海外語学留学プログラムの修了者に対して、レポート提出などを組み合わせて 1 単位を与える授業科目である海外短期理工学英語研修 I・II をスタートさせた。また、理工系英語プレゼンテーションは 2019 年度より 2 年次から履修できるようになった。

●英語カリキュラム

- ・ 1 年次
 - English Basic Skills I （前期 2 単位）
 - English Basic Skills II （後期 2 単位）
 - English Advanced Skills I （前期 2 単位）
 - English Advanced Skills II （後期 2 単位）
 - English Remedial Course I （前期 2 単位）（自由科目）
 - English Remedial Course II （後期 2 単位）（自由科目）
- ・ 2 年次
 - English for Science and Technology I （前期 2 単位）
 - English for Science and Technology II （後期 2 単位）
- ・ 3 年次
 - 理工系英語プレゼンテーション（前期、後期・2 単位）
（2019 年度より 2 年次からも履修可能となった。）
 - 語学検定対策講座（前期、後期 2 単位）
 - ・ 学外英語検定 I・II（前期、後期・各 2 単位）
 - ・ 海外英語研修 I・II（前期、後期・各 2 単位）
 - ・ 海外短期理工学英語研修 I・II（前期、後期・各 1 単位）

* 学生は卒業までに英語科目 8 単位（選択）を取得することが卒業要件である。

1年次の English Basic Skills および English Advanced Skills はアカデミックな表現を習得する目的に適った教材を用い、2年次の English for Science and Technology は理工系の場面での表現方法を磨く教材を用いている。

1、2年次の英語授業ではレベル別クラス編成を採用している。TOEIC の基準点に達していない学生は、English Basic Skills の単位取得に際して English Remedial Course の単位の取得を条件としている。また、TOEIC の高い基準点を超えている学生に関しては、レベルが高いクラスである English Advanced Skills を履修するようにした。English Advanced Skills の履修者は、成績においてはレベルが高いことを考慮し、成績が低くならないように加点している。English for Science and Technology においても、レベル別クラス編成にして、同様の考慮をしている。

このように現在はクラス別編成に TOEIC のスコアを活用しているが、入学時に全員が受けて以降は任意受験としていた時期においては学内 TOEIC-IP の受験率は低かった。この点を改善するために、2016年度からは、1、2年次科目の英語科目の成績に期末試験時に行われる学内 TOEIC-IP のスコアを組み込むことにし、各学期での受験を必須とした。その結果、本学部の 2016年度の TOEIC 受験率は1年生が 99.6%、2年生は 98.3%に達した。

TOEIC 受験率がほぼ 100%に達しているので、学生の英語の学力の変化を TOEIC で追跡することが可能となった。ただし、本学部の英語教育は、理工系の実践的な英語力を涵養することを目標としており、TOEIC のスコアの向上を授業の直接の目標にはしていないことに留意すべきである。

2019年入学生では、入学時の TOEIC スコアの平均点が 423 点であったのに対し、1年後期終了時には入学以降の TOEIC ベストスコアの平均点が 479 点となった。(2019年度大宮学生課からのデータに基づく。)

なお、2020年度前期は新型コロナの影響で、4月の入学時プレイスメントテストは中止となった。また、7月から8月にかけての TOEICIP オンラインテストも1、2年次の英語授業 EBS/ EAS および EST の成績算入には含めないことを判断し、前期開始前に学生に周知した。7月から8月にかけての TOEICIP オンラインテストは、1年生は入学時アセスメントテストとして全員受験、2年生以上は任意・推奨受験とした。学内のほとんどの学部もこの方針であったが、後期についても早めに判断し、学生に周知する。

理工系英語プレゼンテーションの授業では、3年生を中心に、2019年度からやる気のある2年生にも履修を広げ、高度な英語授業を進めている。履修学生が「グローバル人材育成教育学会第二回関東支部大会」で優勝するなどの成果をあげている。

海外英語研修の履修者は、夏のプログラムでは 2015年度は 14名だったが、2016年度は 53名に増加し、2017年度は、海外英語研修と海外短期理工学英語研修合わせ合計 139名となった。2018年度は、海外英語研修が 34名、海外短期理工学英語研修が 121名の合計 155

名となり、2019年度はさらに海外英語研修が68名、海外短期理工学英語研修が175名の合計243となった。海外での英語の集中的な学習が広がりつつある。2020年度については新型コロナウイルスの影響が大きく、オンライン参加ができる所以外は中止となった。

後述するとおり、5学科からの委員によって構成される語学ワーキンググループでは、発足以来、3,4年次の英語学習について議論してきた。これまで、スーパーグローバル大学支援事業の一環として開催しているTOEIC講座への参加の呼びかけを3,4年生を中心として行っていたが、1,2年生にも呼びかけを広げるようにした。

英語の新カリキュラムは2015年度にスタートし、その時の入学生が2018年度に4年生となった。新カリキュラムでは3年次から4年次に進級するときにTOEICのスコアが470点以上であることを目標としているが、達成していない学生には新スーパー英語によるe-learningを課した。対象者に対して、各学科の語学ワーキング委員が通知した。前期途中のTOEIC試験を受けることを義務づけし、そこで470点以上をとったらe-learningを免除することにし、学生に周知した。2019年度においても同様に行った。

第二外国語は、2018年度までは、卒業までに第二外国語単独で2単位（選択）を取得することが卒業要件であったが、2019年度からは総合科目の中の一枠組み「人文科目・保健体育科目・第二外国語」から卒業までに4単位を取得する選択科目となった。

具体的なカリキュラムは以下の通りである。（根拠資料：「学修の手引」、大学ホームページのシラバス）

●第二外国語カリキュラム

- ・1年次以上 中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国（朝鮮）語Ⅰ・Ⅱ、スペイン語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ

システム理工学部の卒業要件を満たすには、学生は英語単位を少なくとも8単位取得する必要がある。英語科目は、科目は選択できるが教員は選択できない。履修クラスはWebシステム「S*gsot」で通知される。こうした手順に関しては、入学時のガイダンス等において学生に周知している。

2015年度より大学会館に英語学習サポート室を新設し、英語学習の相談に行くことができるようにした。火曜日から金曜日の昼休みから3時間ほど開室し、特任教員2名のうち1名が曜日ごとに常駐した。担当特任教員はEnglish Remedial Courseの授業も受け持ち、受講学生の補習指導などに活用していた。また、PCを設置し、e-learningができるようにした。英

語学習サポート室利用者数は、2019年度前期はのべ2,413名、後期は867名となった。2020年度については、English Remedial Courseを担当する3名の非常勤講師がサポート室も担当し、授業と連携した補習を行っている。コロナ対応の2020年度前期については、学生はSCOMBの英語サポート室コミュニティから質問フォームにアクセスでき、担当教員がそれに回答し、学生に届く仕組みになっている。Zoomやメールなどでの指導もでき、その後担当教員が指導記録をまとめている。2020年度前期利用者はのべ988名となった。

英語の基礎学力が不足している学生に対してはEnglish Remedial Courseの授業を通常授業であるEnglish Basic Skillsに加えて履修することを必須とし、英語の基礎学力の向上を支援した。English Remedial Courseの配属になるTOEICスコアの基準点は、入学する学生の英語力の上昇を反映させて、2015年度は260点、2016年度は280点、2017年度、2018年度、2019年度は295点とした。

2019年度入学生では、リメディアルクラスの対象となる基準295点以下の学生が入学時には45名いたのに対し、2019年度末のベストスコア結果までには7名になった。(2019年度大宮学生課からのデータに基づく。)リメディアル教育の成果により、英語の基礎学力が不足している学生の解消が進んでいると判断できる。

3. 学生の受入れ

語学部会では、部会の理念・教育目標を実現するために、学生の受け入れに関して、以下の制度を整備している：

- ・英語のクラスに関しては、ペアワークやグループワークを中心としたアクティブラーニングを効率よく行うために、25人以下のクラス編成の実施を目標としている。非常勤講師の新規採用により2017年度以降25人以下のクラスを目指している。2019年度では、1クラス当たりの履修者数は、1年生科目のEnglish Basic Skillsでは最大21(前期)と20(後期)名、English Advanced Skillsでは最大21(前期)と23(後期)名、2年生科目のEnglish for Science and Technologyでは最大23(前期)と20(後期)名となった。すべてのクラスで20~23名となり、目標の25名以下を維持できた。English Advanced Skillsでは2018年度から基準点を固定ではなく、1クラスの人数が適性になるように基準点を決めることにし、現在に至っている。2020年度前期については休講の講師が出たため、急遽専任教員クラスなどを増やしたが、1クラス当たりの人数はESTでは通常より多くなった。
- ・第二外国語のクラスに関しても、1クラス25名定員で学生の受け入れを実施している。

4. 教員・教員組織

2018年度まで語学プログラムを担当する語学部会は英語担当の専任教員2名と特任教員1名から成り、学部の語学教育を推進していたが、2019年度から特任教員に代わり、専任教員1名が増え、合計3名となった。さらに、英語担当教員のいない学科から3名、学部長室から1名加えた語学ワーキンググループで、3,4年生の英語力向上などの授業科目外を中心とした語学プログラムのサポートをしている。

2019年度は英語の授業は、上記の語学部会の専任教員3名に非常勤講師13名と特任講師2名を加えた18名で行った。2020年度前期は1名分の空席に加え、3名の非常勤講師が事情により休講となったが、2020年度後期はすべて復帰する予定で、空席だったコマも現職の講師によって充たされ、後期へ向けた体制が万全となった。

1年生の英語担当にはリーディングとライティングを中心とした基礎学術英語の英語教育の経験のある教員を採用し、2年生の英語担当には可能な限り理工系英語の英語教育の経験のある教員を採用できている。

第二外国語担当非常勤講師は6名おり、教える言語のネイティブか、ネイティブに近い日本人講師を配し、学生にとって初めての言語を教えるのに適した経験豊かな講師陣となっている。